

命をかけたはつこい

八百屋お七阿波へ渡る

なりたかひどうぞ
成田街道沿いの大和田小学校の隣に、
てんじゆんさんちようみょうじ
天受山長妙寺があります。「妙栄信女
てんなんすのらさんがつにじゆうくたち
天和癸亥三月二十九日」と刻まれてお
り、浄瑠璃や歌舞伎の演目で知られる
「八百屋お七」の墓と伝えられています。

ほんてつどう
本郷の八百屋の娘お七は、火事で近
くの吉祥寺（実説では円乗寺）へ避難、
てらこしじよう
寺小姓の小野川吉三郎の指のとげを抜
いたことがきつかけとなり恋仲となり
ます。娘心の一途さで、もう一度火事
になれば吉三郎と再会できる...と思
詰め、火付けの罪を犯します。江戸は
たいか
大火となり、お七は鈴が森で火刑に処
せられます。天知三年（1683年）
三月二十九日、お七は十五歳の短い生
涯を終えます。

ざいにん
罪人の埋葬は禁じられていましたが、
養母の実家のある萱田町長妙寺に、密
かに葬られたのであります。

とくしましよしのほんせつどうほうじゆんさんばんがくじ
徳島市吉野本町宝珠山万福寺の資料
では、お七の養父元兵衛は万福寺の檀
家で、（井原西鶴の戀草からげし八百屋
物語では八兵衛、お七の年は十六歳で
ある）阿波徳島城下、助任町の八百屋
でしたが、藩主蜂須賀公の参勤交代に
賄い方として同行、そのまま江戸に永
住することになります。夫婦には子ど
もがなかったので、姪のお七を養女と
したのです。

「八千代の歴史と文化」

のこしたるもの
つたえたいもの

⑩

監修 小林 弘治
絵 小出 忠美

じけん
事件の後、吉三郎（順覚）はお七の
菩提を弔う行脚に出ます。寄せられた
喜捨を手に江戸に戻った順覚は、三体
の露座仏を造ります。そして、そのう
ちの一体を吉祥寺へ奉納、もう一体は
鈴が森へ安置しました。

この
残る一体は養父元兵衛の菩提寺、万
福寺へ奉納されることになります。

にほんぼしさんちようめか
江戸日本橋三丁目河岸ヨリ出仏、海陸
運搬シテ阿州徳島渭ノ津北助任万福寺
ニ之ヲ納ム。順覚坊同道ス。享保十三
年」と記されていきました。お七歿後45
年のことでした。

せんじぶつし
このお七地蔵は、戦時物資として供
出されましたが、昭和58年11月、八百
屋お七ゆかりの延命地蔵尊として再興
されています。

なまがら
お七の亡骸が萱田町の長妙寺に埋葬
されていたことを順覚坊が知っていた
ならば、三体めのお地蔵様は長妙寺に
奉納されていたかも知れません。



延命地蔵尊再興落慶



▲長妙寺にあるお七の墓

よ
世のあわれ
はる
春ふく風に
なを
名を残し
おくれ桜の
今日散りし身は